大 洲 民 報 | 2017 年 7 月 16 日 | 日本共産党 大洲市委員会 | 23-3271 39-2915

大洲市６月定例議会

～日本共産党　梅木かづこ の 議会報告　その６～

地域公共交通について

＜梅木市議の質問＞

28 年度現状把握を行い、平成 29 年度地域公共交通協議会で検討すると答弁されています。一日も早い実施を求められています。市民の方々の足の確保の声はますます強く、大きくなっています。

長浜の地域の方々から、「沖浦から自転車で支所に行くにも風の強い日はつらい、自転車に乗れないと歩いていかないと用ができない。」、「銀行や病院、買い物などしようと思っても便利も悪い。」、「大洲のぐるりんバスほど大きくなくてもいいので、循環バスを走らせてほしい」の声です。こうした御要望に応える予定はないですか。

さらに、新谷の方々の「バスでなくてもいい、小さくて小回りがきき、利便性に富んだものにしてほしい。」との声や、市民の皆さんから、「やれるところからやってほしい」の声です。具体的に本年度実施は可能な地域はありますか。また、検討結果、来年から一斉に実施するのでしょうか、お答えをください。

＜答弁＞　本年度、大洲市地域公共交通網形成計画を策定するに当たり、改めて市民アンケートや路線バス乗降調査、また関係者ヒアリング調査などを行い、公共交通の現状分析、潜在ニーズや需要推計、さらに交通結節点の設置に向けた分析などを実施することということにしている。それらから住民の方々の意向を把握し、実現可能性の高い交通体系へ反映させるとともに、運賃などの受益者負担と運行にかかわる市の財政負担のあり方、またどれくらいの利用者であれば運行し維持していけるのかなど、一定のルールづくりも進めてまいりたい。

小さいところから車を回す、タクシーを利用してでもやる。大きな計画を立てて、それができたらやりますではなく、もう今欲しい、今何とかしてくれっていうそういう願いに応えていきながら、また他なところで要望が出たら答えていく。そういう柔軟な発想で公共交通を考えるべきだと思いますが、いかがですか。

＜答弁＞　中山間地が大部分を占め、集落が点在する状況であるので、現在のスクールバスの住民利用で対応できないような場合が当然出てくる。これらについては、今後デマンド等の運行も視野に入れて、それらの対応をしなければならないと考えているが、それ以外については現在の基本方針ではうたっておらず、それについて今回の網計画のほうでしっかりと書き込んで、今後それに基づいて地域の方々と協議しながら、地域にとって最適な公共交通網を御提案して、実施してまいりたい。

長浜については、現在大洲市内を走るぐるりんバスは年間７万人から８万人の方々が利用している。多くの利用者が見込まれない場合に、循環バスによる運行が可能なのかどうか。これらについても検討する必要があるため、長浜地区の循環型バスのあり方についても、受益者負担、財政負担、また利用者数などを検討、精査しながら網計画の中で検討させていただきたい。

市民アンケートに寄せられた「お困りごと、ご要望」です。

『家の近くの側溝と川の継ぎ目がガタガタで、車いすでは危険で通れない』とのお困りごとが寄せられました。

内容について問い合わせた結果、県が７月末に工事をすることになりました。

身の回りで不便・危険な箇所がありましたら、ご相談ください。

これまでに大洲市長へ
はがき　　３０７枚
要望者数　７８４人
が届いています。
（2017.7.12 現在）